

1. 略歴

- 1997年3月 東京大学文学部行動文化学科社会学専修課程卒業
- 1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻修士課程入学
- 1999年3月 同 人文社会系研究科社会文化研究専攻修士課程修了
- 2002年3月 同 博士課程単位取得退学
- 2004年4月 札幌学院大学社会情報学部講師（～2006年3月）
- 2005年5月 博士（社会学）学位取得（東京大学）
- 2006年4月 札幌学院大学社会情報学部助教授
- 2007年4月 信州大学人文学部准教授
- 2012年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

コミュニティの社会学、ハウジングの社会学、社会調査史

b 研究課題

- (1) 建造環境と社会構造の関係についての理論的・経験的研究
- (2) 米国、英国および日本における社会調査史

c 概要と自己評価

(1) 欧州を中心に形成されてきたハウジング研究の画期をなした著作である *Housing and Social Theory* (1992年) の全訳を刊行した。日本では同書およびその知的背景はほとんど知られていないため、訳者解説「ハウジングの社会学・小史」を付した。(2) 日本と米国の社会調査における計画的コミュニティ研究の展開について、関連資料の分析と考察を進め、その成果の一部を国際学会等で報告した。

d 主要業績

(1) 翻訳

祐成保志 (訳)、『ハウジングと福祉国家』(Kemeny, J., 1992, *Housing and Social Theory*, Routledge の全訳)、新曜社、2014.12

(2) 論文

- 祐成保志、「住まいの研究はなぜ難しいのか」、『いい住まい いいシニアライフ』、121、1-7頁、2014.7
- 祐成保志、「なぜ理論が重要なのか」、『いい住まい いいシニアライフ』、122、1-8頁、2014.9
- 祐成保志、「住宅市場の多様性」、『いい住まい いいシニアライフ』、123、1-6頁、2014.11
- 祐成保志、「居住空間の供給源」、『いい住まい いいシニアライフ』、125、21-26頁、2015.3
- 祐成保志、「住まいをつくる力」、『いい住まい いいシニアライフ』、126、13-18頁、2015.5
- 祐成保志、「住宅はどのような商品か」、『いい住まい いいシニアライフ』、128、1-7頁、2015.9
- 祐成保志、「メディアとしての住宅」、『いい住まい いいシニアライフ』、129、1-8頁、2015.11
- 祐成保志、「ハウジングの社会学・小史」、『ハウジングと福祉国家』(前掲)、271-296頁、2015.12

(3) 学会発表

- 国際、Sukenari Yasushi、「Housing Estates as Experimental Fields of Social Research」、XVIII ISA World Congress of Sociology, RC08 History of Sociology、パシフィコ横浜、2014.7.15
- 国際、Sukenari Yasushi、「Housing Estates as Experimental Fields of Social Research」、2014 SNU-UT Joint Sociological Forum、Seoul National University、2014.11.15
- 国際、Sukenari Yasushi and Hirai Taro、「Current Debates on the Condominium Management System in Japan」、2015 European Network for Housing Research Conference、Lisbon University Institute、2015.7.1

(4) その他

- 祐成保志、書評 武田尚子著『20世紀イギリスの都市労働者と生活：ロウントリーの貧困研究と調査の軌跡』、『日本労働研究雑誌』、57(2・3)、82-84頁、2015.2
- 祐成保志、「講演 戦争と住宅」『住宅会議』、96、8-10頁、2016.2

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、日本大学文理学部、「社会学特殊講義3」、2015.4～2015.9

非常勤講師、法政大学大学院社会学研究科、「社会学特殊研究6」、2015.12

(2) 学会

国内、日本社会学会、データベース委員、2013～2015

国内、日本社会学会、学術情報支援委員、2015～

国内、日本生活学会、編集委員、2014～